

県直営による公の施設の管理運営状況

| | |
|--------|-----------------|
| 施設の名称 | 群馬県立館林美術館 |
| 所在地 | 館林市日向町2003 |
| 所管部局・課 | 生活文化スポーツ部 文化振興課 |

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

| |
|---------------------------------|
| 社会教育法、博物館法、群馬県立美術館の設置及び管理に関する条例 |
|---------------------------------|

2 施設の役割

| |
|---|
| <p>(1) 設置目的 美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって県民文化の振興に寄与する。</p> <p>(2) 設置当初の状況 より多くの県民に美術作品鑑賞の機会を提供することを目的として、近代美術館のある高崎市から遠隔地にあたる東毛地域に、平成13年10月、2館目の県立美術館として開館した。</p> <p>(3) 施設を取り巻く現状 平成13年に開館し、平成30年度までの18年間の入館者数は89万人となっている。 平成20年度の「公共施設のあり方検討委員会」の中間報告を踏まえ、「より地域に密着した形の美術館」としての役割を果たすため、地域の特性に即した企画展を開催しており、平成27年度の入館者数は、過去最高の8万5千人を記録し、その後も毎年度5万人余で推移している。 館林美術館では、子どもたちの美術への関心を高めるため、学校教育との連携に力を注いでおり、平成21年度からは地元小学生による木版画展の開催、平成25年度からは芸術科を設置する県立高校とタイアップした事業を実施している。 また、地元で親しまれ、地域に根ざした美術館として、幅広い世代に開かれ、芸術や美術への興味を持ち、美術館を楽しむことができるよう工夫を凝らしたワークショップなどの事業を実施している。 厳しい財政状況の中、今後も多くの県民の方々が来館し、県民文化の振興に寄与できるよう充実した企画展の開催と関連する講演会やワークショップなどの事業の実施に努めていきたい。</p> |
|---|

3 施設の概要

| | |
|---------------|---------------------|
| 設置年月日 | 平成13年4月1日(開館10月26日) |
| 敷地面積(所有者) | 19,219平方メートル(群馬県) |
| 主な施設(床面積、階数等) | 6,856平方メートル、地上2階建 |
| 建設費 | 5,551,461千円 |
| 備考 | |

◇入園料・利用料等 (円) ◇利用時間(休館日)

| 区分 | 金額 | 9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末年始 |
|---------|-----------|--|
| 一般 | 200、団体160 | |
| 大学生・高校生 | 100、団体80 | |
| 中学生以下 | 無料 | |
| 障害者・介護者 | 無料 | |

※ 企画展は大人1,020円の範囲内で別に設定

4 施設における実施事業

- 展示
企画展示、コレクション展示
- 教育普及事業
 - ・企画展：記念講演会、アーティスト・トーク、作品解説会、ワークショップ、たてび☆びじゅつ部
 - ・子ども向け：たてび☆キッズウォーク、みんなのアトリエ、館林邑楽地区小学生木版画展、夏休み宿題相談室
 - ・一般向け：美術講座、たてび土曜レクチャー、学芸員による作品解説会、ポンポン・ツアー、美術館ミニコンサート
 - ・学校向け：教職員のための模擬授業、アートカードを活用した鑑賞授業、出張授業
- 収集・保管
- 調査研究

5 管理運営コストの状況

(千円)

| 区 分 | 30年度(当初予算額) | 29年度(決算額) | 28年度(決算額) | 27年度(決算額) | 26年度(決算額) |
|-----------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 歳入(1) | 14,386 | 19,391 | 14,897 | 31,714 | 10,487 |
| 入館料・図録販売収入 | 11,338 | 14,265 | 10,707 | 28,490 | 7,757 |
| 行政財産使用料(土地・建物) | 1,240 | 1,416 | 1,320 | 1,748 | 1,216 |
| レストラン光熱水費等 | 1,308 | 1,402 | 1,153 | 1,476 | 1,514 |
| 各種助成金 | 500 | 2,308 | 1,717 | 0 | 0 |
| 歳出(2) | 261,017 | 267,474 | 259,724 | 253,002 | 260,209 |
| 常勤職員 | 86,536 | 95,372 | 89,423 | 79,104 | 87,757 |
| 非常勤職員 | 17,102 | 16,900 | 16,737 | 16,649 | 16,554 |
| 管理・事業費 | 157,379 | 155,202 | 153,564 | 157,249 | 155,898 |
| 歳入・歳出の差額(1)-(2) | ▲ 246,631 | ▲ 248,083 | ▲ 244,827 | ▲ 221,288 | ▲ 249,722 |
| 歳入・歳出の主な増減理由 | 平成27年度は、「リサ・ラーソン展」などの企画展に多くの来館者を迎え、これに伴い入館料が増加し、歳入額は対前年度比302%となった。歳出については、美術館の管理や企画展の開催などの事業費として、例年1億5千万円余の経費を支出している。 | | | | |

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

| | 30年度 | 29年度 | 28年度 | 27年度 | 26年度 |
|-------|------|------|------|------|------|
| 常勤職員 | 10 | 11 | 11 | 9 | 10 |
| 非常勤職員 | 8 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 合 計 | 18 | 18 | 18 | 16 | 17 |

7 施設利用の状況

| 区 分 | 30年度※ | 29年度 | 28年度 | 27年度 | 26年度 |
|-------------|--|--------|--------|--------|--------|
| 年間利用者総数(人) | 27,563 | 54,868 | 52,516 | 85,339 | 50,153 |
| 有料利用者数(人) | 10,492 | 19,622 | 17,345 | 38,367 | 13,476 |
| 無料利用者数(人) | 17,071 | 35,246 | 35,171 | 46,972 | 36,677 |
| 目標利用者数(人) | — | — | — | — | — |
| 施設稼働率(%) | — | — | — | — | — |
| 稼働率対象施設(設備) | — | | | | |
| 利用者の主な増減理由 | 平成27年度の施設利用者(来館者数)は、「リサ・ラーソン展」(25,912人)、「古代エジプト・美術の世界」(21,672人)などで多くの来館者があり、開館以来最高の計8万5千人となった。 | | | | |

※ 見込数又は途中実績を記入(平成30年9月末現在)

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

| 区分 | 検討結果・理由等 |
|---------|--|
| 施設の必要性 | <p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 館林美術館は2つ目の県立美術館として、「自然と人間」をテーマとして、調和、共生、対峙など自然と人間の様々な関わりを表現した作品を収集、保存、展示し、多くの県民に美術作品の鑑賞の機会を提供している。 </p> <p> 平成20年度の「公共施設のあり方検討委員会」(中間報告)では、「館林美術館は平成13年に開設した新しい施設であることなどから、存続させる。ただし、当面2館の運営を継続するとしても、その役割分担や位置づけについて早急に検討するとともに、利用者増加の積極的な努力を求めたい。」「館林美術館は、より地域に密着した形での美術館として、その役割を検討すべきであり、運営についても地域の方々の理解と連携協力により行われるべきである。」とされた。 </p> <p> こうした報告の内容を踏まえ、館林美術館では、「学校教育との連携」を強く意識した事業や、「地域に開かれた美術館」としての役割を果たすことができるよう各種事業の実施に積極的に取り組んできた。 </p> <p> 平成21年度から実施している地元小学校の全5年生の木版画を展示する「小学生木版画展」では、毎年1,500人を超える児童の作品を展示し、保護者などとの来館を積極的に促すことにより、美術館を身近に感じてもらえる事業として定着している。また、美術館の職員が小中学校を訪問して行う美術鑑賞授業には、多くの学校から照会や派遣の要望が寄せられ、学校現場で生きた授業が実践できるとして評価されている。こうした事業は、子どもたちの美術への関心を高め、美術ファンの裾野を広げることにつながっている。 </p> <p> また、「地域の方々の理解と連携協力により運営」していくことについては、美術館が行うイベントをサポートするボランティア制度(「たてび☆サポーター」)を平成29年度から刷新し、県民と共働する新たな運営体制を構築したところであり、館林美術館は県民に親しまれ、住民に身近な存在となっている。 </p> <p> 当該施設の設置目的である、美術に関する県民の知識及び教養の向上を図り、もって県民文化の振興に寄与する施設として、位置づけられている。 </p> |
| 指定管理者制度 | <p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 県民の貴重な財産である美術作品を収集・保存し、調査研究を行い、また、魅力ある展覧会を企画・開催していくには、学芸員としての専門的な知識と経験などの人材面、美術館を管理運営していくための財政面で、しっかりとした基盤が築かれていることが求められる。 </p> <p> 指定管理者制度の導入については、こうしたことを踏まえ、他の自治体の移行状況などを研究しながら、県として慎重に検討していく必要がある。 </p> |

見直しの検討が必要なものがある 当面見直しの必要はない

「公共施設のあり方検討委員会」(中間報告)、「館林美術館運営懇談会」(報告書)を踏まえ、平成21～24年度の4年間において、数値目標を盛り込んだ経営改革計画を策定し、利用者の増加に向けた対策や経費節減等に取り組んできた。この期間の終了後も、これまでの目標を継承し、新たな項目(「入館者数」「教育普及活動」「来館者満足度」「ボランティア登録者数」「各館個別目標」)などを追加した統一目標(平成25～27年度までの3年間)を設定し、業務の改善に取り組んできた。平成28～29年度においても、これまでと同様の目標の設定、事業内容の検証を行ってきた。

平成30年度においては、これまでの目標に加え、「第2次 群馬県文化振興指針」(平成30～34年度)を踏まえ、更なる利用者の増加に向けての対策や経費節減に積極的に取り組んでいきたい。

<数値目標>

・小学生木版画展(観覧者数)

平成27年度 3,500人 平成28年度 3,500人 平成29年度 3,000人 平成30年度 3,000人

・みんなのアトリエ等(参加者)

平成27年度～平成29年度 560人 平成30年度 560人

・学校授業との連携

平成27年度～平成29年度 40クラス(1,000人) 平成30年度 40クラス(1,000人)

<経費節減>

○芸術文化振興基金等の助成金の活用 (平成29年度:2,308千円)

○平成29年度当初予算

印刷物等の見直し、備品(仮設展示ケース等)の連続使用

○平成30年度当初予算

電気料金(契約)の見直し:入札により業者を選定(近美・歴博・館美)

<利用者の増加に向けての取組>

○メリハリのある企画展の開催(地域の特性に即した企画展)

平成26年度:「陽光の大地ーブラジルの日系人画家たちと大岩オスカル」展

平成28年度:「大地に立って/空を見上げてー風景のなかの現代作家」展

平成29年度:「カミナリとアートー光/電気/神さま」展 など

○教育普及事業の強化

・新学習指導要領の改定に沿った学習プログラム(スクールプログラム)

・学芸員等による出張授業の拡大

○「小学生木版画展」の開催、創作体験「みんなのアトリエ」の開催、たてび☆キッズウォークの開催

○「夏休み宿題相談室(西邑楽高校との連携事業)」の開催

○小・中教員と学芸員の協働による「美術鑑賞法」の授業の実施(サマーセミナー)

○美術館内での美術鑑賞授業の推進

○県民目線に沿った館運営

・顧客満足度調査(アンケート)の実施

○広報活動の充実

・東武鉄道(館林駅、多々良駅)での案内看板の設置

・地元テレビ局、ラジオ局、新聞社など報道機関への情報提供、県広報誌での掲載

・行政機関(県内外)、教育機関、金融機関、商工団体、企業へのチラシ配布

・「ぐんまちゃん家」の活用など、県外におけるPR活動の強化

○ホームページやフェイスブックなどを活用した情報発信の強化

○近代美術館(友の会)を通じた相互の展示PR、入館料の割引

○東武鉄道・旅行会社との連携(入館料割引)

○大川美術館との連携による入館料の共通割引の実施

業務等の見直し